



2018年12月5日

マツダ、低環境負荷のバイオエンブラ新意匠2層成形技術を開発 —アジアを代表する環境・エネルギーの総合展示会「エコプロ2018」に出展—

マツダ株式会社(以下、マツダ)は、環境負荷を低減しながら、高い質感を実現できるバイオエンジニアリングプラスチック(以下、バイオエンブラ)を用いた新意匠2層成形技術を開発したことを発表しました。

このバイオエンブラ新意匠2層成形技術による自動車内装意匠部品の試作品展示をはじめ、理想の内燃機関を目指した「SKYACTIV-X」や独自の電動化技術、塗装技術などマツダの環境に関する取り組みについて、12月6日(木)から東京ビッグサイトで開催される、アジアを代表する環境・エネルギーの総合展示会「エコプロ2018」¹において展示を行います。



バイオエンブラ新意匠2層成形技術イメージ

バイオエンブラ新意匠2層成形技術は、環境に優しく透明感のあるバイオエンブラを使用した表層樹脂と基材表面に柄を刻み込んだ基材樹脂との2層成形により、深みのある色合いと精緻感、陰影感など、従来の技術では実現困難な意匠を実現させながら、環境負荷の低減を可能にする技術です。マツダはこの技術により開発した自動車内装意匠部品の今後の新型車から順次採用していく予定です。

植物由来原料を使用するバイオエンブラは、石油資源の使用量削減やCO₂排出量の抑制、無塗装によるVOC²の削減により、環境負荷の低減に貢献する材料です。マツダでは、従来材料の塗装が施された部品を超える質感(深みのある色合い、鏡面のような平滑感)を材料着色で実現するなど、高い意匠性を持つ自動車内外装部品としても使用できるように開発し、2015年に「ロードスター」の内装意匠部品に初めて採用して以来、現在国内で販売しているすべての乗用車³の内装意匠部品や外装意匠部品に採用しています。

今後もマツダは、「地球」「社会」「人」とクルマが共存する世界の実現を目指し、「走る歓び」と「優れた環境・安全性能」を感じていただける商品開発により、お客さまとの間に特別な絆を持ったブランドになることを目指してまいります。

*1 「エコプロ2018」

(期間:12月6日(木)~8日(土) 主催:一般社団法人産業環境管理協会、日本経済新聞社)

*2 揮発性有機化合物 (VOC:Volatile Organic Compounds)

*3 「デミオ」「アクセラ」「アテンザ」「CX-3」「CX-5」「CX-8」「ロードスター」「ロードスター RF」。